

2010年度 地球家族プログラム 報告

小倉 みどり ・ 松浦 まち子

1 はじめに

名古屋大学には、現在75カ国・約1500人の留学生在籍しており、大学はまさにグローバルサイエティといえる。この恵まれた環境を利用して、大学及び地域における国際理解をさらに深めることを目的とし、地球家族プログラムでは、1998年からホームステイプログラムを実施している。

留学生にとっては、本プログラムを通して、日本文化を体験してもらうとともに、自国の文化を紹介する大変良い機会となっている。

2 ホストファミリー

ホストファミリーは、近隣のボランティア団体及び、名古屋大学教職員をはじめとする、個人登録者にご協力をいただいている。

2010年度はボランティア団体からは延べ103家族（ヒップファミリークラブ 69家族、多治見国際交流協会ハビネスト15家族、国際ボランティアボレボレ3家族、知多市国際交流協会7家族、津市国際・国内交流室9家族）にご協力いただいた。

個人登録者については、5家族にご協力いただいた。これらの家族は、友人からの紹介や、ホームページを読んで興味を持った方からの問い合わせにのみ応じており、登録に際し、家族登録書を持参していただき、ホームステイについての説明をした後、質問にお答えするなどの面接を約15分間実施している。現在14名の個人登録者がいる。

また、これまで、名古屋大学まで留学生を迎えに来ていただいていたが、待ち合わせ場所を自由に決めていただくようにしたことによって受入れがしやすくなり、協力者も増えたようである。

3 留学生の募集方法

留学生の募集については、ECISのラウンジに掲示

したり、新入留学生オリエンテーションや、学部オリエンテーションでのチラシ配布、さらにレジデンス東山、山手、嚶鳴館、留学生会館にポスティングや掲示を行った。

4 ホームステイオリエンテーションの実施

参加が決まった留学生（工学部・教育学部のプログラム以外）を対象に、事前にホームステイオリエンテーションを実施している。オリエンテーションでは、ホームステイ時の写真を見せながら説明したり、注意事項として、感謝の気持ちを「言葉」で表すこと、自分のホームステイの経験と友人の経験とを比較しないこと、ホストファミリーにお金を借りたり、保証人になってもらうなどのことは絶対にしないこと、ホストファミリーとの待ち合わせ場所・時間を事前に自分で連絡をとり確認することなどを伝えている。

5 マッチングについて

各プログラムでの募集定員は、目安であり、最終的には、留学生とホストファミリーの数が同数になるように締切日を変更するなどして、応募者にはなるべくお断りをしないように調整をしている。

ホストファミリーから、留学生の国籍などの要望は基本的に受け付けないことにしているが、女性だけの世帯だったりする場合、女性を受け入れたいという希望には応えている。また、経験者には、以前とは、なるべく違う国の方を受け入れしていただいたり、アレルギーがある場合、また宗教上の理由で食べ物に制限がある留学生については、ホストファミリーの経験が豊富な方をお願いするように心がけている。

受入れが初めての方には、なるべく日本語が上手な学生をあてたり、双方の趣味が一致していること等の配慮をしている。

マッチングの結果、表1の書類を、ホストファミリー、留学生双方に、ホームステイの1～2週間前ま

表1 配布資料

マッチング後配布資料	
留学生へ	ホストファミリーへ
待ち合わせ場所・時間の案内 名古屋大学内の地図（大学内で待ち合わせをする場合） ホストファミリーのプロフィール 楽しいホームステイをするために 感想文用紙	待ち合わせ場所・時間の案内 名古屋大学の地図（大学内で待ち合わせをする場合） 留学生のプロフィール 感想文用紙

では届くように渡している。

ムステイ、また、津市、知多市などの国際交流団体が独自に企画したプログラムにも協力し、年間7回のプログラムを実施した（表2）。

6 2010年度実績報告

2010年度は、地球家族プログラムとしての企画を3回実施したほか、教育学部、工学部からの依頼により、名古屋大学に短期研修にきている留学生のためのホー

ムステイは延べ110名（27カ国）だった。アジア出身者が多く、比率は図1のようにになっている。

表2

	日程		参加人数 (名)	受け入れ先
				(カッコ内は参加者数, ※は1家族で2名受け入れられた場合の留学生数)
*	4/25	津市、一般合同ホームステイ オリエンテーション	一般 18 津市 7	
1	5/1-3	ゴールデンウィーク	30	ヒッポファミリークラブ (27) ハピネスト (2) 個人 (1)
2	5/1-4	津市国際・国内交流室主催のプログラム	9	津市国際・国内交流室 (9)
3	6/26-27	工学部サマーセミナー	22	ヒッポファミリークラブ (11) ハピネスト (8) 半田ボレボレ (1 (※2)) 個人 (1)
4	7/31-8/2	夏休み	14	ヒッポファミリークラブ (10) ハピネスト (2) 個人 (2)
5	11/22-23	教育学部国際大学交流セミナー	8	ヒッポファミリークラブ (8)
*	12/3	ホームステイオリエンテーション	6/7	
6	12/17-19	知多市国際交流協会主催の プログラム (写真1)	7	知多市国際交流協会 (7)
*	3/11	ホームステイオリエンテーション	20/25	
7	3/19-21	春休み	20	ヒッポファミリークラブ (13) ハピネスト (3 (※4)) ボレボレ (2) 個人 (1)
計	7回		110	



写真1 (知多市国際交流協会のホームページ: <http://chita-ia.jp/> より)

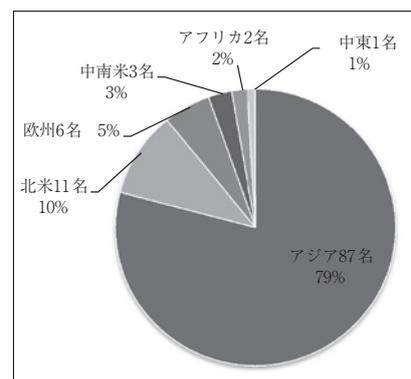


図1 ホームステイ参加者地域別

7 地球家族プログラムだよりの発行

ホストファミリーとして協力いただいている方、又、ホストファミリーに興味を持っている方を対象に、ホームステイの感想文を写真とともに紹介したり、今後の予定などを掲載した「地球家族プログラムだより」(A4サイズのカラー版)を、今年度は3回発行した(図2)。

尚、3月には、通常の記事のほかに、東日本大震災後直後の春休みのプログラムについて、急遽帰国する学生からキャンセルがあったことへのお詫びとともに、春以降のプログラムを正常に行うことなどのインフォメーションを掲載した。

8 ホームステイ感想文

① 留学生の感想文から

- ・日本の家庭料理、たこ焼き、お好み焼き、おにぎりを一緒に作り、とてもおいしかった。
- ・可愛い子どもたちと遊んで楽しかった。
- ・一人暮らしの女性のところにステイし、いろいろ話をして、一緒に出かけたり、夕食を食べたり、お弁当を作ってくれたりして楽しかった。
- ・日本の家族や文化についてたくさん知ることができ、また、自分の国や民族についてホストファミリーに教えることができた。



写真2 着物

地球家族プログラムだより

名古屋大学 留学生相談室
第15号 2010年6月発行

留学生の国籍別

昨年度は、年間7回のホームステイプログラムを実施し、137家族のご家族にご協力いただきました。どうもありがとうございました。そして、148名の留学生が参加しましたが、国籍は多岐にわたっており、なんと33ヶ国でした!

中国	49	ミャンマー	3	オーストラリア	1	ハンガリー	1
韓国	17	インド	2	オランダ	1	ポランド	1
アメリカ	16	エジプト	2	ロシア	1	ベトナム	1
台湾	11	ドイツ	3	シリア	1	ポーランド	1
タイ	6	パキスタン	2	スリランカ	1	ボリビア	1
インドネシア	5	モンゴル	1	タイ	1	ラオス	1
ロシア	5	イギリス	1	タンザニア	1		
フィリピン	4	ウクライナ	1	チュニジア	1		
フランス	3	エチオピア	1	トルコ	1		

恥ずかしながら、私には、地図帳を出して調べないとわからない国がたくさんあります。

言葉の壁

ホームステイの初には、ホストファミリーの皆さんも、留学生も、「言葉が通じないのでは?」と、とても不安になるようです。でも、ホームステイが終わってみると「言葉が通じなくても、大丈夫でした!とても楽しかった!」という感想が多数寄せられています。実際、大人よりも、小さな子供たちの方が、すぐに仲良くなりましたようです。きっと言葉以外にも、コミュニケーションの仕方はあるのですね。

ゴールデンウィーク ホームステイプログラム

ヒップファミリークラブの皆さんが、留学生との対面したときの集合写真です。沢山の人の中から、相手を見つけるのは大変なので、可愛いプラカードを用意されている方もいらっしゃいました。対面の時は、これからどんなホームステイがはじまるのか、一番ドキドキする瞬間ですね。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 15 電子情報館西棟7階
名古屋大学留学生相談室
地球家族プログラム担当 小倉 みどり
勤務日 毎週火曜日・金曜日 午前9時～午後3時
TEL: 052-789-6117 FAX: 052-789-6120
e-mail: chikyu@ecis.nagoya-u.ac.jp

今後のスケジュール

夏休みにホームステイプログラムを予定しています。ご協力よろしくお願ひ致します。

図2 地球家族プログラムだより 第15号

- ・日本文化の体験として、資料館に行って着物を着ました。一人で着ることがなかなかできなく、お母さんに助けてもらいました。着物を着るのは大変でしたが、楽しかったです。(写真2)

② ホストファミリーの感想文から

- ・観光に出かけたり、茶道、箏曲、太鼓等の演奏を体験してもらった。



写真3 伝統衣装の披露

- ・〇〇人だからこういう人だという、特定の国籍に対する固定概念をもっていたが、実際に会って話をすることで、気付かされるのがたくさんあった。
- ・宗教上の理由で、食事に制限があるということが心配されたが、お酒と豚肉以外は、なんでもおいしく食べてもらえて嬉しかった。
- ・自国の伝統衣装を持ってきてくれて、汗だくになりながら、みんなにも着せてくれました。彼がその衣装を着るととても素敵でした。(写真3)

ホストファミリーから寄せられた感想文のほとんどが楽しかった思い出等が寄せられているが、中には、ホームステイ時に、感謝の言葉が聞かれなかったことに対して、残念であるという意見があった。実際にその留学生に感想をきいてみると、とても楽しかったという返事があり、ホストファミリーへの感謝の気持ちは持っていたが、伝わっていなかったということがわかった。また、ホームステイが2泊3日だったのに、

2日目に用事があるからといって、帰宅してしまったなどと、僅かではあるが、苦情も寄せられている。ホームステイオリエンテーションでは、これらの意見をフィードバックし、注意事項として強調するよう心がけている。

9 ホームステイの効果

自国から離れて暮らしている留学生にとって、日本人の一般家庭でのホームステイは、貴重な体験となっている。

日本語が流暢に話せない学生でも、自国の料理を教えたり、民族衣装を披露することによって、言語以外の方法で、コミュニケーションをとることもできるなど、有意義な経験となっている。またホームステイ終了後も、ホストファミリーとの関係を続けてゆく留学生が複数いるようである。